

テーマ：人と自然との調和と共生をめざして

関連の深いコース：ローカル・サステナビリティコース、グローバル・サステナビリティコース、環境サイエンスコース

1. このテーマを学ぶために

人は自然環境に対してこれまで多くの影響を及ぼし、今この時も与え続けています。人類の幸福のためには仕方がない、という考えがある一方、自然災害や感染症、食料や水不足など、手痛いしっぺ返しをしばしば自然から受けているのも事実です。果たして一方的に自然を利用し、資源を収奪し続けることでこの先、持続的な経済活動や社会を築いていけるのだろうかという疑問がわいてきます。

ではどうすればよいのか、利用することと保全することのバランスをどう取ればよいのか、これはなかなか難しいテーマです。時と場所によっても違いますし、方法や程度によっても許容される幅が変わってきます。また身近な視点から、国際的な視野までズームを効かせることも欠かせません。しかしどこかに、これ以上は超えてはいけないという線があるはずです。

大切なことは、常に問題意識を持ってこのテーマを考究し、実行し、修正し続けることではないでしょうか。行政、ビジネス、教育、住民、NPO など様々な立場の人が、また様々な土地の人が、それぞれ自分の立ち位置と全体との関係を考えながら、難問に当たっていくことが求められると思います。

社会でこの一翼を担うためには、どのような知識を身に付ければよいのでしょうか。いくつか科目を選んでみましょう。自然環境に関する基礎的なことや起きている現象は、**サイエンスカフェⅢ（生態学）**、**自然環境論Ⅰ～Ⅳ**、**環境科学Ⅱ～Ⅲ**などで多くのことが学べます。**自然環境政策論Ⅰ～Ⅱ**では全体を俯瞰して幅広く人と自然との関係のあり方について考える材料が得られるでしょう。また**気候変動論Ⅰ～Ⅱ**では地球的規模に立った自然環境の捉え方を、**環境倫理学Ⅰ～Ⅱ**では人の視点に立って、自然に対する道德観や付き合い方を学べるでしょう。そのほか、社会的な観点からは、**自然災害論**、**環境社会論Ⅰ～Ⅲ**、**地域コモンズ論**、**日本環境史論Ⅰ**、**環境人類学Ⅰ～Ⅲ**などが、国際的な俯瞰力を培うには**国際環境法**、**国際環境政策Ⅰ～Ⅱ**、**国際経済協力論Ⅱ**、様々な実施主体または手立ての視点からは**NGO 活動論**、**自治体環境政策論Ⅰ～Ⅱ**、**環境教育論**などが幅広い知識を授けてくれることと思います。

幅が広すぎてとらえどころがない、と感じるかもしれませんが、多角的な考え方や見方を吸収することで、問題を解決に導く独創的な思考につながるとと思います。皆さんの年代は最も吸収力が旺盛です。多くの知識をたくさんの引き出し（ラベル付き整理箱）に入れ、それを自在に引き出せるようにできれば、ひとつの専門分野では解決が難しい難問を解決に近づける力をつけることができると思います。

2. テーマに関連した推奨科目

自然環境政策論Ⅰ～Ⅱ、サイエンスカフェⅢ（生態学）、自然環境論Ⅰ～Ⅳ、環境科学Ⅱ～Ⅲ、気候変動論Ⅰ～Ⅱ、環境倫理学Ⅰ～Ⅱ、自然災害論、環境社会論Ⅰ～Ⅲ、地域コモンズ論、日本環境史論Ⅰ、環境人類学Ⅰ～Ⅲ、国際環境法、国際環境政策Ⅰ～Ⅱ、国際経済協力論Ⅱ、NGO 活動論、自治体環境政策論Ⅰ～Ⅱ、環境教育論 など